

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 35 週( 8 月 25 日～ 8 月 31 日)

奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(8月)
- 気になる話題 ～感染症の発生動向を調査しています

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	1.71	(1.94)	➡	↗	↘	↕
2	咽頭結膜熱	0.74	(0.62)	➡	↗	➡	↗
3	ヘルパンギーナ	0.71	(0.59)	⬇	⬇	⬇	⬇
4	突発性発しん	0.65	(0.12)	⬆	⬆	↗	⬆
5	A群溶連菌咽頭炎	0.56	(0.35)	➡	↗	⬇	⬇

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)

増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **⬆⬆**急増、**⬆**増加、**↗**やや増加、**➡**横ばい、**↘**やや減少、**⬇**減少

## ◆ 県内概況 ◆

全体的に、例年並みの発生状況となっています。咽頭結膜熱は、少し高めで推移しています。

RSウイルス感染症の報告が増えてきました。例年9月から急増し、秋から冬に流行します。

RSウイルス感染症は、およそ4～6日間の潜伏期間の後、鼻汁などの症状が続き、重症化する場合は、咳がひどくなり肺炎へと進行します。感染経路は、患者のくしゃみのしぶき等を吸い込む「飛沫感染」やウイルスが付いた手で触ったドアノブやおもちゃの共用のような間接的な「接触感染」です。

このウイルスは何度も感染するウイルスで、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の児が感染します。初めて感染した場合、特に乳児期早期(生後数週間～数カ月間)に感染すると、重症化しやすいと言われています。

成人や年長児が感染しても、はっきりした症状が出ない場合もあり、RSウイルス感染症と気づかないこともあります。流行時期には不要な外出を避け、咳や呼吸器症状のある人には近づかないようにしましょう。また、咳等の呼吸器症状がある成人や年長児は、可能な限り0歳児と1歳児との接触を避けるようにしてください。

《参考》RSウイルス感染症に関するQ&A(厚生労働省)

[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs\\_ga.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_ga.html)

## ◆ 病原体(ウイルス)検出情報(8月) ◆

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
コクサッキー A2	4				ヘルパンギーナ(4)
コクサッキー A4	1				ヘルパンギーナ(1)
エコー 5		1			発疹症(1)
エコー 11	1				ヘルパンギーナ(1)

❖ 定点把握感染症報告状況 ❖

平成 26 年 第 35 週 8 月 25 日 ~ 31 日

保健所別報告数	奈良県		北部		中部		南部	
	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野		
インフルエンザ定点数	55	11	16	11	11	3	3	
インフルエンザ								
小児科定点数	35	7	10	7	7	2	2	
RSウイルス感染症	6 (0.18)	1 (0.14)	1 (0.10)	2 (0.29)	1 (0.14)		1 (0.50)	
咽頭結膜熱	25 (0.74)	8 (1.14)	3 (0.30)	1 (0.14)	11 (1.57)	1 (1.00)	1 (0.50)	
A群溶連菌咽頭炎	19 (0.56)	10 (1.43)	7 (0.70)	2 (0.29)				
感染性胃腸炎	58 (1.71)	14 (2.00)	17 (1.70)	6 (0.86)	14 (2.00)	5 (5.00)	2 (1.00)	
水痘	7 (0.21)	2 (0.29)	3 (0.30)		2 (0.29)			
手足口病	12 (0.35)	1 (0.14)	6 (0.60)	1 (0.14)	4 (0.57)			
伝染性紅斑	4 (0.12)	3 (0.43)		1 (0.14)				
突発性発しん	22 (0.65)	8 (1.14)	6 (0.60)	4 (0.57)	3 (0.43)		1 (0.50)	
百日咳								
ヘルパンギーナ	24 (0.71)	11 (1.57)	5 (0.50)	3 (0.43)	4 (0.57)	1 (1.00)		
流行性耳下腺炎	7 (0.21)	1 (0.14)	1 (0.10)	3 (0.43)	2 (0.29)			
眼科定点数	9	1	3	2	2	0	1	
急性出血性結膜炎							-	
流行性角結膜炎	7 (0.78)		2 (0.67)	1 (0.50)	1 (0.50)		3 (3.00)	
基幹定点数	6	1	2	1	1	1	0	
細菌性髄膜炎								-
無菌性髄膜炎								-
マイコプラズマ肺炎								-
クラミジア肺炎								-
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)								-

❖ 全数把握感染症報告状況 ❖ ( )は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核6件(奈良市3、郡山2、葛城1)
3類感染症	
4類感染症	デング1件(奈良市1:渡航歴あり) レジオネラ2件(奈良市1、郡山1)
5類感染症	梅毒1件(葛城1)

❖ 第 35 週のトピックス ❖

デング熱について(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/dengue-fever.html>

<注目すべき感染症> 西アフリカ諸国におけるエボラ出血熱の流行 2014年 (IDWR)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/1095-disease-based/a/viral-hemorrhagic-fever/ebora/idsc/idwr-topic/4902-idwrc-1430.html>

感染症対策医師等研修会を開催します(県保健予防課)

<http://www.pref.nara.jp/item/125933.htm#moduleid17426>

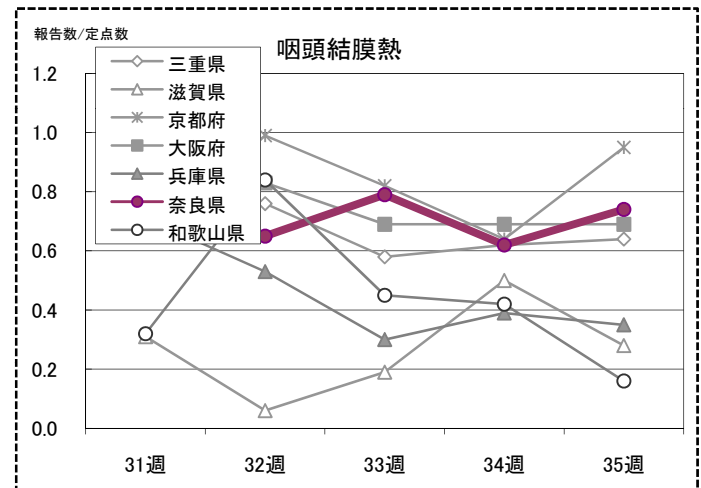
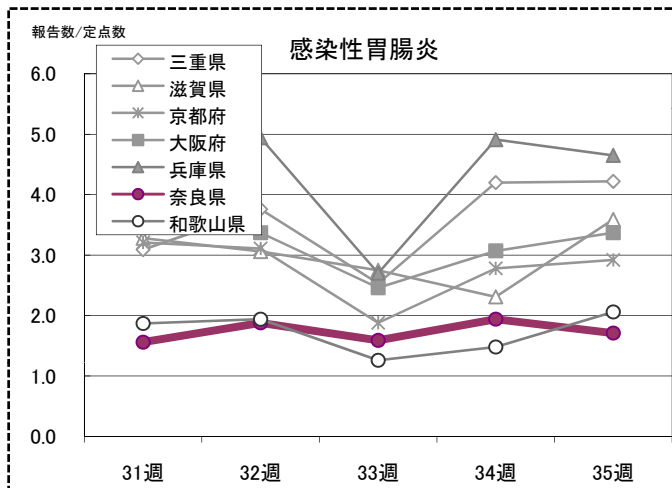
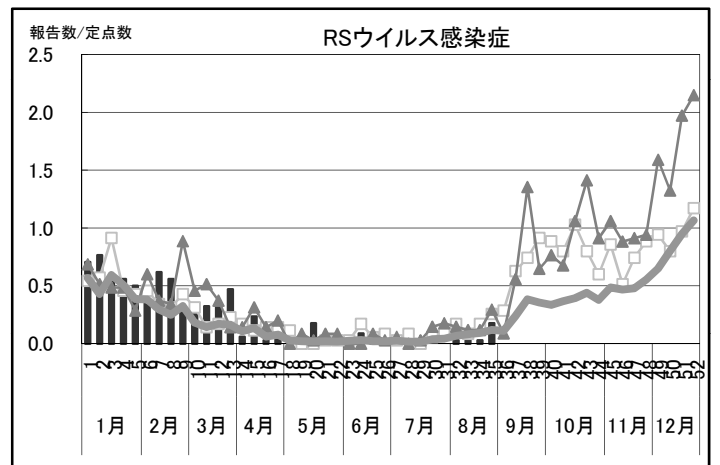
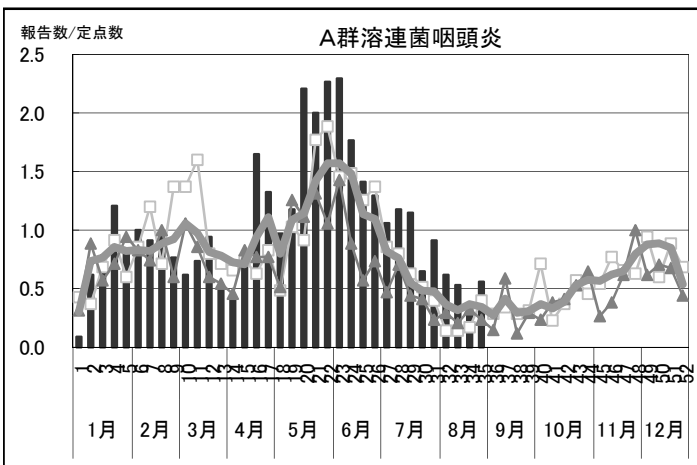
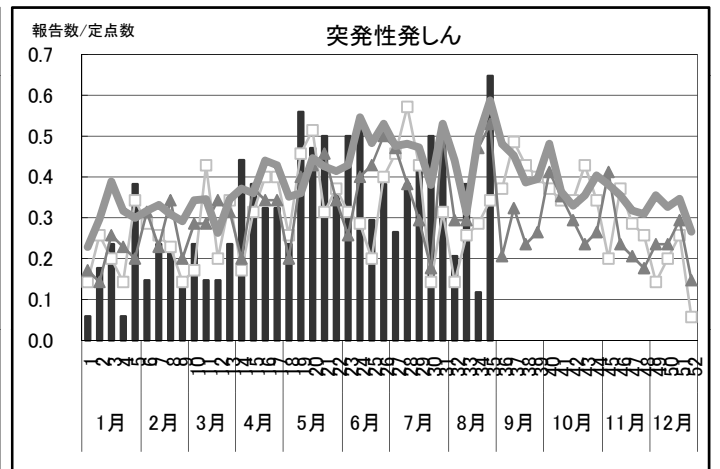
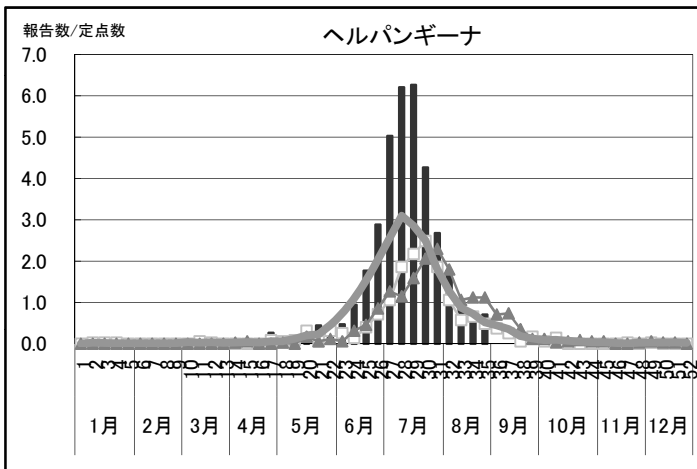
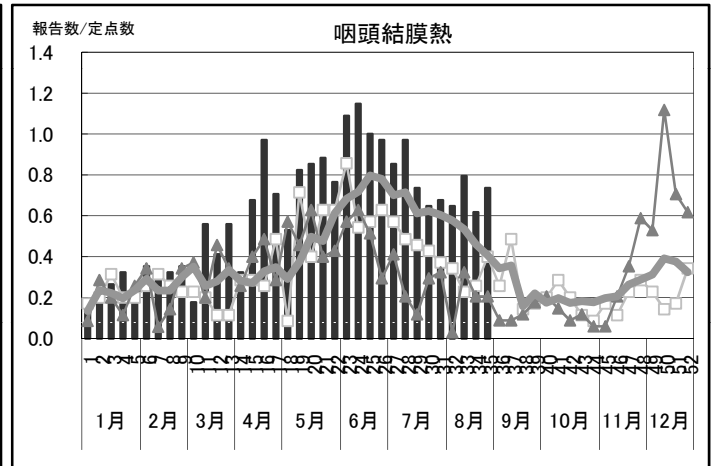
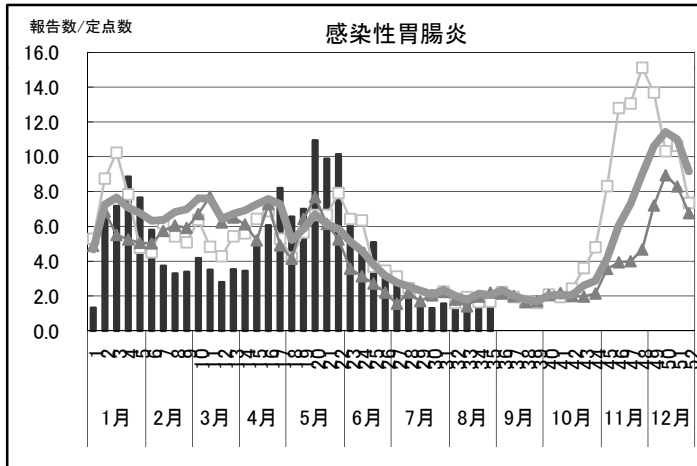
上段 : 報告数  
(下段) : 定点当たり報告数 報告数÷定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	累計
インフルエンザ	男																						5966
	女																						5983
RSウイルス感染症	男		1	2																		3	138
	女		1	2	2																		3
咽頭結膜熱	男		1	2	2	3		2	1	2	1				1							15	406
	女			2	4	2	1	1	2														10
A群溶連菌咽頭炎	男			2	1	3	5	1	1				1									14	654
	女			2	2	1	1	1	1													5	582
感染性胃腸炎	男		3	5	1	4	2	1	2		4	2	2	8								34	2920
	女		2	1	2	1	1	3	1	3		3	3	3								24	2707
水痘	男			3	1	1	1															6	510
	女			1																		1	446
手足口病	男		1	4	1	1						1										8	80
	女			2			1		1													4	60
伝染性紅斑	男		1																			1	35
	女						3															3	39
突発性発しん	男	1	6	3			1															11	210
	女	1	4	5	1																	11	170
百日咳	男																						1
	女																						
ヘルパンギーナ	男		1	3	5	4		1														14	645
	女		1	4	1	1	2	1														10	580
流行性耳下腺炎	男					1		2	1													3	75
	女							2	1													4	66
急性出血性結膜炎	男																					1	57
	女														1	1						6	78
細菌性髄膜炎	男																						4
	女																						1
無菌性髄膜炎	男																						5
	女																						1
マイコプラズマ肺炎	男																						3
	女																						3
クラミジア肺炎	男																						
	女																						
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	男																						18
	女																						18

❖注目疾患の動向❖ 全て定点当たり報告数

■ H26 ▲ H25 □ H24 〻 過去10年平均



◆ 気になる話題 ◆

## 感染症の発生動向を調査しています

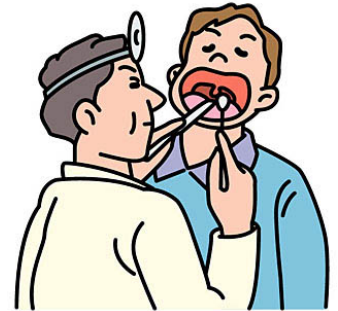
「インフルエンザが流行し始めました！」「ヘルパンギーナが大流行！！」など、感染症についての、ニュースをご覧になったことがあると思います。

これは、全国規模で感染症の発生動向を調査しており、集めた情報を積極的に情報提供することで、感染症の拡大を防止することを目的としています。

奈良県でも、感染症発生動向調査として、県内の医療機関にご協力いただき、感染症の発生状況（疾患別・男女別・年齢別の患者数）の情報を集め、患者数の増減に注視し、流行がみられるときは、積極的に情報提供を行っています。

中でも、毎週の発生動向の調査にご協力いただいている医療機関は、**定点医療機関**として、奈良県知事が依頼した医療機関で、県内で延べ 114 医療機関（インフルエンザ 55、小児科 35、眼科 9、性感染症 9、基幹（入院）6）あります。発生状況の情報は、その医療機関で感染症と診断したすべての患者さんについて、疾患別・男女別・年齢別に分けて報告いただいています。

また、上記**定点医療機関**に更にご協力をいただき、感染症の原因となる微生物の調査をしています。患者さんから病原体（検体）を採取してもらい、奈良県保健研究センターでウイルスの遺伝子型などの詳細な検査を行っています。ウイルスの詳細がわかると、今後の流行の予測ができたり、ワクチンを作る時の参考にしたりします。



これ以外にも、感染症の中でも重篤な感染症については、すべての医療機関から届出をいただき、拡大防止のため、積極的な疫学調査・衛生指導を行っています。結核、腸管出血性大腸菌（O157など）、AIDS、薬剤耐性菌感染症、麻しん、風しんなどです。

患者さんの皆さまには、県内の医療機関での感染症発生動向調査にご理解いただきますようお願いいたします。

また、医療機関におかれましては、日頃のご協力に感謝するとともに、さらなる積極的な検体の採取をお願いできたらと、切願しております。

今後とも、奈良県感染症発生動向調査によろしくご協力いただきますようお願いいたします。



（感染症情報センター 0744-47-3183）